

ビジネス・キャリア検定試験

標準テキスト

BUSINESS CAREER

監修 苦瀬 博仁・梶田 ひかる
中央職業能力開発協会 編

ロジスティクス管理

2級

目次

第1章 企業経営とロジスティクス管理	1
第1節 経営におけるロジスティクスの位置づけ	2
❶ 企業経営とロジスティクス管理/2	
❷ ロジスティクスの使命と目的/5	
❸ ロジスティクスの管理範囲/7	
第2節 ロジスティクス管理サイクル	12
❶ ロジスティクス管理の階層/12	
❷ 管理サイクル/17	
第3節 ロジスティクス管理の組織	19
❶ ロジスティクス管理組織の構造/19	
❷ サードパーティ・ロジスティクスとロジスティクス組織/24	
理解度チェック	30
第2章 ロジスティクス統制	31
第1節 ロジスティクスとリスクマネジメント	32
❶ リスクマネジメントの必要性/32	
❷ ロジスティクスのリスク/34	
❸ リスクマネジメントの流れ/37	
第2節 物流品質管理	40
❶ 物流品質の種類と管理の範囲/40	
❷ 物流品質管理の要点/41	
第3節 ロジスティクス評価指標	46
❶ ロジスティクス管理と経営効率指標/46	
❷ 評価指標の選定/48	
❸ 代表的な評価指標/50	
第4節 ロジスティクス監査	53
❶ ロジスティクスと監査/53	
❷ ロジスティクスの監査項目/55	
❸ ロジスティクス監査プログラムの策定/56	
理解度チェック	58
第3章 物流サービス管理	61
第1節 物流サービスの構成要素	62
❶ 物流サービスの構成要素/62	
❷ 物流サービスの種類/63	

第2節 物流サービス管理サイクル	65
1 物流サービスの管理サイクル/65	
2 物流サービスの現状調査/65	
3 物流サービスの分析・評価と物流サービスレベルの設定/69	
4 実行体制の確立と推進/71	
5 成果の測定と改善/72	
理解度チェック	74
第4章 ロジスティクスと環境問題	77
第1節 ロジスティクスと環境問題のかかわり	78
1 地球環境問題と国際条約/78	
2 廃棄物と資源循環型社会形成/80	
3 環境に関する各種行政施策/82	
4 ロジスティクスと環境問題/83	
第2節 輸送と環境問題	86
1 輸送と地球温暖化/86	
2 グリーン物流総合プログラムにおける重点推進策/86	
3 省エネルギー法/89	
4 輸送と大気汚染問題/96	
第3節 その他の環境規制とその動向	99
1 リサイクル法/99	
2 廃棄物とその処理/101	
3 欧州における環境法規制/102	
理解度チェック	107
第5章 物流に関する政策	111
第1節 わが国の物流政策	112
1 これまでの物流政策/112	
2 総合物流施策大綱(2013-2017)/113	
3 物流総合効率化法、改正道路交通法/117	
4 国土交通省生産性革命プロジェクト/122	
5 大都市圏や自治体による物流政策/124	
6 国際物流への取り組み/129	
7 災害ロジスティクス/132	
第2節 諸外国の物流政策	134
1 物流規格の国際比較/134	
2 欧州における国際間の複合輸送/137	
3 アジア諸国の大都市圏における交通規制/137	
4 欧米諸国の都市内物流施策/138	
理解度チェック	140

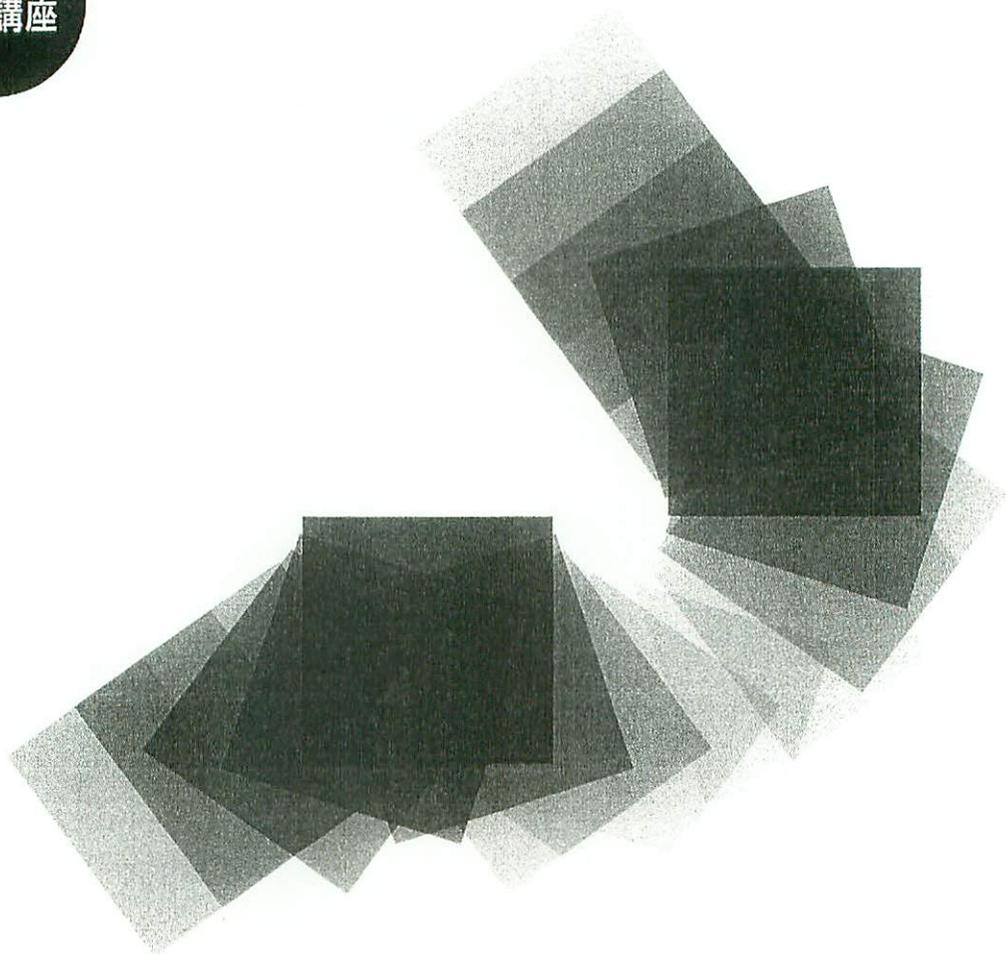
第6章 在庫管理	143
第1節 在庫管理方式の種類	144
❶ 在庫管理方式の種類と計算方法/144	❷ 在庫分類と在庫削減の方策/153
第2節 需要予測	158
❶ 需要予測の概要/158	❷ 需要予測に使われる手法/163
第3節 在庫分析手法	165
❶ ABC分析の活用/165	❷ 在庫鮮度分析の活用/168
理解度チェック	170
第7章 物流システム管理	173
第1節 企業間物流システム	174
❶ 組み立て型メーカーにおける調達物流改革/174	
❷ 共同物流/176	❸ VMI/179
❹ 国際VMI/180	❺ CRP/181
第2節 物流拠点の計画	183
❶ 物流拠点の立地選定/183	❷ 拠点規模の見積もり/184
❸ 物件の選定/186	❹ レイアウトの設計/187
第3節 輸送モードの選定	188
❶ 輸送モード選定の視点/188	
❷ 国際物流における輸送モードの選定/189	
❸ 輸送事業者の選定/192	
第4節 物流システムの開発	194
❶ 物流システム開発プロジェクトの設置/194	
❷ 物流システムの開発タスク/195	❸ 導入スケジュール/198
❹ 稼働判断のチェック項目/199	
第5節 委託先管理	202
❶ 委託先の選定/202	❷ 料金体系の選定と料金の設定/204
❸ 契約/206	
❹ 管理指標とインセンティブ・違約条項の設定/208	
第6節 物流拠点の業務改善	211
❶ 物流拠点の業務改善の視点/211	
❷ 物流拠点の業務改善のための分析/212	
理解度チェック	217

第8章 物流コスト管理	219
第1節 物流原価と予算管理	220
❶ 原価計算の概要/220	❷ 予算管理/224
第2節 物流ABC	228
❶ 物流ABCの概要/228	❷ 物流ABCを用いた各種分析/231
第3節 棚卸資産	233
❶ 棚卸資産評価の重要性/233	
❷ 取得と販売時点における棚卸資産の扱い/234	
❸ 低価法による時価評価/235	
❹ 減耗損・評価損・廃棄損と財務諸表との関係/238	
第4節 物流採算分析	240
❶ 物流採算分析の概要/240	❷ 投資を伴う採算分析/241
理解度チェック	244
第9章 ロジスティクス情報システムと情報通信技術	247
第1節 自動認識技術とその活用	248
❶ 自動認識技術とその活用/248	❷ OMR・OCR・磁気ストライプ/251
❸ データキャリア/252	
第2節 無線技術とその活用	256
❶ 無線LAN/256	❷ 移動体通信/257
❸ 衛星通信/258	
第3節 企業間情報交換と情報通信技術	260
❶ 企業間での情報交換とEDI/260	❷ 物流とEDI/261
❸ 物流VAN/264	❹ インターネット技術とその活用/265
❺ 求荷求車システム/266	
第4節 開発および運用技術とその活用	267
❶ パッケージソフトウェアの活用/267	
❷ ネットワーク経由でのアプリケーション活用/270	
理解度チェック	272
第10章 ロジスティクス情報システム開発	275
第1節 ロジスティクス情報システムの概要	276

1 ロジスティクス情報システムの体系/276	
2 ロジスティクス情報システムの開発と運用のポイント/279	
第2節 受注処理システム	282
1 受注処理システムの概要/282	
2 オーダーエントリーのオンライン化・EDI化・インターネット化/283	
3 受注処理システムと顧客サービス/284	
4 事前出荷案内 (ASN)/285	
第3節 購買・発注処理システム	287
1 購買・発注処理システムの概要/287	
2 発注のタイプ/288	
第4節 在庫管理システム	292
1 在庫管理システムの概要/292	
2 単品管理と管理情報の精度/294	
3 S&OP/296	
4 在庫適正化と在庫管理システム/297	
第5節 倉庫管理システム	299
1 倉庫管理システムの概要/299	
2 WMSによる業務の流れ/301	
3 倉庫管理システム高度化の方向/304	
第6節 輸配送管理システム	307
1 輸配送管理システムとその構成/307	
2 配車計画システム/309	
3 運行管理システム/311	
4 輸送モード選択・運賃計算システム/313	
5 ITS (高度道路交通システム)/314	
第7節 SCMのための情報システム	316
1 SCMと情報システム/316	
2 SCM関連のパッケージ/317	
第8節 物流分析・シミュレーションシステム	319
1 物流分析/319	
2 物流シミュレーション/322	
理解度チェック	324
第11章 国際物流における貿易実務取引と情報システム	327
第1節 輸出入業務システム	328
1 国際物流の概要/328	
2 輸出フォワーディング業務/332	
3 輸入フォワーディング業務/336	
4 関税とHSコード/340	
5 貨物海上保険/342	
第2節 輸出入情報システム	344
1 日本における輸出入申請に関するシステム/344	

■ 港湾情報システム／345	
第3節 国際貨物管理システム	351
■ 貨物追跡システム／351	
■ セキュリティ管理システム／355	
■ 国際物流におけるEDI／357	
理解度チェック	359

通信
教育講座



テクノロジストシリーズ

副読本

生産現場の マネジメント

JTEX

職業訓練
法人 日本技能教育開発センター

もくじ

1. 管理者・監督者のマネジメントとリーダーシップ	2
1.1 マネジメントとは	2
1.2 リーダーシップとは	2
1.3 管理者・監督者のリーダーシップ	3
1.4 管理者・監督者の教育・指導力のリーダーシップ	3
2. 管理者・監督者が身につけたい10か条	7
2.1 管理者・監督者の能力、態度、姿勢	7
2.2 管理者・監督者のあるべき姿	8
2.3 こんな管理者・監督者は上司からも部下からも好まれる	8
3. 生産現場の生産性・付加価値を高める10のポイント	9
4. 自分の強み、弱みを見つける自己診断チェックリスト	10
5. 生産現場の監督者が果たす役割と責任	12
5.1 現場・職場の6大任務	12
5.2 QCDの目標の達成	13
5.3 仕事の標準化とその向上	14
5.4 監督者における改善の着眼点	14
5.5 部下の育成	16
5.6 監督者の日常業務の役割と責任	17
6. 生産現場のマネジメントは「ものづくり」が基盤	22
7. 生産現場における基本思想	23
7.1 企業理念とは	23
7.2 5ゲン主義とは	23
7.3 「3現、3即、3徹」とは	24
7.4 品質の確保が第一	25
7.5 生産現場における3つのムダの排除	26
8. ものづくりのあるべき姿	30
8.1 後工程が必要とする品質を全数保証する	30
8.2 後工程が必要なものを、必要な時に、必要な数量だけつくる	30

8.3 最小の資源（人、もの、金）でつくる	32
8.4 人を大切にする	32
8.5 自分にとってのプロとは	33
9. 「儲かる改善」を実現させる	34
10. 動作経済の4原則	35
11. 結果系の管理と要因系の管理	36
11.1 管理項目とは	36
11.2 結果系の管理項目	36
11.3 要因系の管理項目	37
11.4 QCDSMEと4M・5Mの管理	37
12. 製造部門における管理者・監督者の日常管理	38
12.1 人の管理	38
12.2 機械・設備の管理	38
12.3 材料・部品の管理	39
12.4 作業方法の管理	40
12.5 計測管理	40
13. 「ムダ取り」のマネジメント	42
13.1 よく動いても、働いたことにはならない	42
13.2 生産現場のムダ取り	43
13.3 仕事感の4つのタイプ	44
14. 儲かる5Sのマネジメント	45
14.1 これまでの5Sとこれからの「儲かる5S」	45
14.2 「儲かる5S」の成功のためには	45
15. 職場の「見える化」のマネジメント	47
16. QCサークル活動（小集団改善活動）のマネジメント	48
16.1 QCサークルの歴史	48
16.2 QCサークル活動の成果（有形効果と無形効果）	48
16.3 QCサークル活動活性化のための推進者の役割	50
16.4 QCサークル活動に関する推進者の自己診断	52

16.5	QCサークル推進のノウハウ	53
17.	災害防止の基本的な心がまえ	55
18.	ヒューマンエラー防止対策のマネジメント	56
18.1	ヒューマンエラーとは	56
18.2	ヒューマンエラーが起こるメカニズム	56
18.3	人の性格とヒューマンエラーのタイプ	57
18.4	「あいまいさ」に対する防止対策	58
18.5	ヒューマンエラー防止対策の7つの道具	59
18.6	ヒューマンエラー防止対策の7つの技法	60
18.7	ヒューマンエラー防止対策と管理者・監督者の役割	61
19.	管理者・監督者の8つの「思い込み」	64
20.	やる気のマネジメント	66
20.1	やる気の法則（1：1.6：1.6の二乗の法則）	66
20.2	監督者は、現場（部下）をどのようにして“やる気”にさせるか	67
21.	「褒める」と「叱る」のマネジメント	68
21.1	「褒め上手」な人は意外に少ない	68
21.2	効果的な褒め方	68
21.3	褒める上司と愚痴る上司では、職場環境に大きな違いが出る	68
21.4	叱られて人（本人）は育つ	69
21.5	上手な叱り方	70
22.	コーチングのマネジメント	71
23.	顧客満足度・従業員満足度のマネジメント	72
24.	「知識と知恵」のマネジメント	73
25.	コミュニケーションのマネジメント	74
26.	なぜ「生産現場が原点」なのか	75